

9年教育が本格化する中 大軌にした給田小らしさ

世田谷区立給田小学校 学校運営委員会通信

平成22年度 第7号
平成22年12月2日
世田谷区立給田小学校
学校運営委員会
委員長 井上健

11月4日、校長室において、
学校運営委員会が行われました。

最初に土橋校長より学校の近況報告がありました。まず、11月2日に世田谷区立小学校の6年生全員が参加して行われる連合運動会の様子が紹介されました。給田小の子どもたちも学年全体で一生懸命に取り組んでいたとのこと。

10月30日の学校公開は、季節はずれの台風の影響で、午前のみ授業になりました。当日、保護者には、緊急メールで連絡をしましたが、地域の方に緊急で知らせする方法がないため、今後の検討課題といたします。

夏に滋賀県で行われた「コミュニティ・スクール推進協議会」での発表をきっかけ、三重県有加太小学校から給田小に、5名の視察依頼がありました。また、井上委員長に文部科学省より、福岡県那珂川町・

筑前町での講演依頼がありました。

委員長から、給田小のどんなところが注目されているのかについて説明があり、それを受けて委員からは、「保護者がボランティア等で授業に入ることに、先生方も抵抗感がなくなり、自然に受け入れられるようになった」「はだしの復活を提案してきたが、はだしカード等の取組みにより、はだしの子が増えた」等、地域運営学校になってからの身近な変化の様子が話されました。

最後に、運営委員会通信6号発行の報告と、7号についての検討が行われました。給田小らしさをテーマに、卒業生から「給田小の思い出」のコメントをいただくという企画に対して、連載にしてもいいのではないかと意見がありました。三重県加太小学校の視察の様子については、次号で紹介いたします。

議題

- 1 学校長より
 - ・学校の近況報告
 - 連合運動会
 - 緊急連絡の方法
- 2 同窓会立ち上げについて
 - ・配布文書の確認
- 3 井上委員長より
 - ・横浜市 福岡県那珂川町・筑前町での講演について
(委員との意見交換)
- 4 運営委員会通信6号発行
- 5 その他
 - ・運営委員会通信7号の紙面構成の検討

出席者：井上・田中龍・岡本
竹越・若林・善方・多田・土橋・安斎

今号は「給田らしさ」がテーマです。他校の事情にも詳しい井上先生に、給田の印象や特色についてお聞きしました。

Q 給田の第一印象は？

最初に給田を訪れたのは、平成17年の夏です。その頃は、千歳鳥山の駅を降りて商店街を抜け、甲州街道を渡ったあたりで道に迷い(笑)、おかげで「給田は畑や緑が多いこと」がよくわかりました。また、仕事を終えて土橋先生と駅に向かって歩いていると、「校長先生、こんにちは」とか、「あっ、お久しぶりです」など、何人もの人から声がかかるのに驚きました。「ここには「コミュニティがあるんだな」と感じたことを覚えていいます。

Q 実際に関わってみての感想はいかがですか？

そうですね。みなさんの「あたたかさ」を感じます。住んでいる町が好きで、子どものために何かしたいと思う人がたくさんいて、そして、実際に何かができる人が、給田の良さではないでしょうか。子どもたちもおもしろい子ども、という感じがします。

Q 他校と給田小の違いはどんなところにありますか？



教えて！ 井上先生

昨年11月、給田小を含めた4校でアンケート調査をしたのですが、給田小の保護者は「地域(まち)」に何でも話すことができる友だちがいる」「地域(まち)に困った時には子どもが預かってくれる人がいる」の数値が4校で最も高く、「とてもそう」と「わりとそう」で6割に達しました。私が感じる「あたたかさ」の背景には、そうした人間関係の良さがあると推測されます。

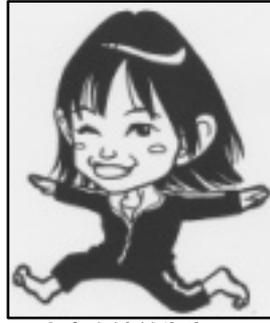
他方で、「地域(まち)」に関わる教育活動への関心は、残念ながら、他校に比べると低い数値に留まっています。ただ、今後、地域運営学校の活動がさらに活発になることで、関心も高まってくるでしょう。

Q 最後に、先生が給田小に期待していることをお聞かせ下さい。

私たちが取り組んでいる地域運営学校は、学校側に都合よく地域が協力してくれる学校でも、特定の人の意見に左右される学校でもありません。教員・保護者・地域住民、さまざまな立場の人が協働し、子どもたちはもちろん、学校に関わるすべての人の生き方が豊かになるような学校づくりです。給田小であれば、それができると私は信じています。

保健体育部

今から約30年前に始まった「はだし」。学校改築のため4年間休止していました。学校運営委員会では、給田小の伝統でもある「はだし」を復活させて欲しいと提案していましたが、その思いは先生方も同じだったようです。今回はうすぎ、はだし・木登りなどの推進をしている、給田小ならではの校務公筆「保健体育部」リーダーの大本奈緒美先生にお話を伺いました。



大本奈緒美先生
スポーツが大好きな大本先生。来年の東京マラソンに出場される予定です。靴は履いてくださいね！

Q. 給田小学校につきすぎ・はだし・木登り等の伝統があることをご存知でしたか？

いいえ、赴任が決まってから周りの方に特色を教えてくださいました。

Q. 先生が給田小学校にいらした時は校舎の改築中でしたが、どのような状況だったのでしょうか？

仮設校舎があり、旧校舎が取り壊され、子どもたちが使えるのは第2グラウンドだけとなり、はだしも行っていない状態でした。

Q. 大本先生は、直接「はだし」を「存じなかったわけですが、復活の経緯を教えてください。」

私が給田に来た時、はだしは休止していましたが、当時担任していた6年生は運動会の徒競争でみんなはだしで走っていました。私からしてみると、靴を履いて走った方が早い気がしましたが、「本気の時ははだし！」という子どもたちの気合いが感じられたのを覚えています。はだし経験者の先生方は、たくましくなるとか、おおらかになるとか、健康面よりも精神面が鍛えられるような事を熱く語っていました。

Q. 具体的に、はだしを復活させるために、どのような事を考えましたか？

校庭が完成したら復活しようと教職員で話し合っ、はだし集会を行うことにしました。また、週に1日はだしの日を受け、はだしになるきっかけを作ろうと考えました。

Q. はだしの良さとはなんだと思いますか？

自分がこつという立場になり、子どもたちにはだしの良さを伝えることで調べたところ、5本の指で踏ん張ることで転びにくくなるとか、足裏を刺激することで脳にもいい影響があることがわかりました。

Q. 今、はだしである子が多いが、たくさんいますが、なにがきっかけになりましたか？

はだし集会がきっかけではだしになれた子はたくさんいたと思いますが、5・6年生が行っている委員会活動に運動委員会というのがありまして、その委員会の活動を通して多くの子どもがはだしになるようになったと思います。

私たち教職員は週に1日でもいいと思っていた「はだしの日」を、子どもたちは月・水・金の週3日にすることにしました。4～10月のはだし推進月間には、運

動委員会を作った「はだしカレンダー」が全校児童に配られます。はだしになった日に印をつけ、クラスごとに集計して表彰することにしました。この活動により、はだしになる機会が増え、はだしになることが日常になりました。この活動により、特に2年生にはだしになる子が増えました。4年後、6年生になった時にどのようにリードしてくれるのか楽しみです。

「地域運営学校」を感じた時
運営委員 善方美枝
今春 上の子の卒業と入れ替わりで、一番下の子どもが給田小学校に入学しました。とうとう私も、身一つで保護者会や学校行事に出かけられる状態になり、ボランティアに参加する機会も増えました。
今年初めて参加したのは、昨年から始まった新一年生の給食ボランティアでした。上の子どもへの時にはなかったボランティアで、様子がわからず最初は緊張しました。しかしそんな不安は、子どもたちの待つ教室に行ったら途端に吹き飛び、子どもたちの人なつこさに圧倒されました。
大勢の子どもたちが同時に話しかけてくる様子がかわいらしく、子どもたちと仲良くなることができました。今ではどこで会っても、手を振ってくれたり、駆け寄って来てハイタッチをしてくれます。委員会や忘れ物を届けるような時でも声をかけてくれるので、私も嬉しい気持ちになります。会えば会うほど子どもたちと親しくなるので、学校に出かけて行くことが楽しくなりました。

Q. 先生も校庭で「はだし」になっ、らっしゃいますが、いかがですか？

とにかく気持ちいいです。土の感触、芝の感触、コンクリートの感触、子どもたちはいろんな感触を足で楽しんでるようです。私も、走ると慣れていないせいかまだ痛いですが、気持ちがいいので率先してはだしになるようにしています。

Q. 保護者が協力できることはありますか？

そうですね、家でもはだしをすすめて、ぜひ一緒にはだしで過ごしてみてください。欲を言えば、学校公開週間の際など、校庭で子どもたちと一緒にはだしになって頂きたいです(笑)。

取材を通して

はだし復活の際には、はだしを経験した先生方の熱い思いがありました。また、「はだし集会」や「はだしカレンダー」など、改築前にはなかった新たな工夫を取り組みに支えられて、「はだし」が復活し、定着してきたことが分かりました。これからのように発展していくのか、見守っていききたいと思います。

これからも充実した気持ちで学校に関わることで、先生、保護者、地域の方々と、給田小学校を少しでも盛り立てたいと思います。

給田小といえば

はだし・うすぎ(体操着)・木登り・一輪車・給田タワー!

そんな頃を給田小で過ごした先生方や卒業生の皆さんに

「思い出」を語っていただきました。

木下裕一先生 H10年度、18年度
 私が赴任した頃は健康教育の伝統が脈々と続いており、子どもたちは誰に言われることもなく、当たり前のようにうすぎ、はだし等に取り組んでいました。休み時間になると、ほとんどの子がはだしになり、真冬でも体育着のみで校庭で思う存分身体を動かして遊んでいました。うすぎやはだしの健康上の効用で身体に及ぼす面以上に心の健康の源になっていたと思います。給田小の子は素直で明るい子が多い所以はここにあると思います。つい学力面にはかり目が行きがちですが、子どもを育てるために、伝統の灯を守り続けてほしいです。

当時はほとんどの生徒が真冬でも競って半ズボン、半袖で薄着冒険をしていました。また、一輪車も学校に数台置かれ始めたばかりで、学年で数名が乗れる程度でした。「カッ!」と「良!」と思い、チャレンジしたのを懐かしく覚えています。
 S56年度卒 河内智幸

「はだし」は とても懐かしいです。私は一年中、裸足で薄着で過ごしていました。あの頃は、風邪をひかなかったなあ!
 S62年度卒 森田慎一

私はなわとびが大好きでした。寒い日にはだしでなわとびをしてひっかかった時の痛み、今でも忘れません。もう、出来ない経験です。
 H3年度卒 渋谷由香



木登り
 初級・中級・上級とレベル別に登ってもいい木が決まっています。一番高い木のてっぺんにいる6年生が下級生のあこがれでした。

給田小の思い出といえばはだしで走って、給田タワーを登って。しかし一番記憶に残る風景は校舎の裏木のなかにひっそりとたたずんでいた自分の心の中にある古民家です。時代を超えて給田小の原風景であり続ける古民家こそ給田小の象徴ではないでしょうか。
 H4年度卒 藤井まな

うすぎ・はだしで校庭を駆け、一つの木でいろんな登り方を試して、卒業して改めて、人と違つ小学生時代の思い出があることを幸せに思います。
 H7年度卒 田中新也

給田小学校の思い出

給田小学校での、思い出は裸足での運動です。幅跳びや、徒競走での記録は靴を履くより、裸足での記録のほうが良かったのが、不思議でした。
 H10年度卒 森谷允宏



はだし・うすぎ(体操着)



チャレンジネット/モンキーロープ
 神田のロープ屋さんで、ロープの結び方を教わった先生方と主事さんの手作りの遊び。子どもたちがよく遊ぶので、ロープの消耗が激しかったそうです。

加藤 恵吾 先生 H13年度、18年度
 私にとつての給田小は学校の中に子どもたちの「挑戦したい!」がたくさんある学校です。例えば一輪車パレード、運動会で見た直後は「すごい!」ですが、次の瞬間から「自分も出してみたい」に変わり、そこから毎日の練習が始まります。それから校庭の登れる木、楽しそうに遊ぶ友達を見て「自分もあそこに行きたい」との思いからどうすれば登れるようになるか自分で考えて研究する。他にも給田小には子どもたちのすぐそばに自然と目標となるものがたくさんありました。そして、目標の数と同じくらい達成した時の笑顔が溢れる素敵な学校です。

放課後は毎日校庭でバスケットをしていてとても楽しかった。体操着もはだしもいい思い出。すのこの感触は気持ちよかったです。
 H10年度卒 内田康介

はだしで感じる季節、足の裏を感じる砂のつぶつぶの感じが、特に冬は冷たくて嫌になるけど、不思議と砂の下の土から暖かさを感じた。給田小でしかできなかった経験。
 H12年度卒 清水岳

3年の時、一輪車に乗れるようになったり、休み時間一生懸命練習をした。目標をたててコツコツやることをその時学んだと思う。
 H18年度卒 岡本直子

6年間薄着でいつづけた僕。給田の薄着のおかげで、めったに病気にかからない丈夫な体をもりました。ありがと、給田小。
 H19年度卒 坂本光



幻の給田タワー
 使わなくなった電柱とタイヤで作られていました。保護者からは「危険ではないか」という声もありましたが、危険度が高まると、子どもたちの集中力も高まり、ケガも少なかったそうです。女子に人気でした。

小島裕子先生 H9年度、H16年度
 「はだし」「うすぎ」「木登り」「給田タワー」「一輪車」などと聞くと、いまでもわくわく胸が躍ります。当時は、年度はじめに全校児童が「足型」をとって、土踏まずの形成を追っていました。6年間はだしで過ごしたからと言って、急激に土踏まずが形成されるわけはありませんでしたが「はだし」は、給田小みんなの心のよりどころだったと思います。「はだし」になって、一番の良ところは、足の裏全体でいち早く季節を感じることができたことです。「はだし」の季節が過ぎて霜柱ができるようになっても月曜朝会にはだしで出て、校庭の土の冷たさにジャンプン跳ねていた男の子を思い出します。一つ一つが思い出深く、語りだしたらきりがありません。

11月6日(土) 給田小学校において、烏山総合支所地域振興課主催による「避難所運営・防災訓練」が行われました。

訓練が開始される1時間前に、給田町会の役員さん、給田小PTA本部役員さん、給田小を支えるお父さんの会「YAMATO」の皆さんなどが集まり4つのグループ

- ・総務・情報担当
- ・避難所担当
- ・救護・衛生担当
- ・給食・物資担当

に分かれて、烏山総合支所地域振興課からそれぞれの役割の説明を受けました。その後、参加者(避難者)受け入れの準備や説明の練習をして、いよいよ訓練の開始です。

総務・情報担当

まず避難者は、避難者カードに必要事項を記入します。担当者はそれをもとに名簿を作成します。これは、誰がどこの避難所にいるかという大切な情報になります。

また、拠点隊(烏山出張所) 烏山地域本部 ボランティアの調整を行います。避難所に入ったらず避難者カードに記入し、防災無線機は、職員室にあります。

避難所担当



避難所の設置、避難者の誘導、避難所のルールづくりなどを行います。被災直後の避難所の開設は参集できた人で行います。学校とあらかじめ協議をして、避難者の滞在スペースを割り当てておきます。

救護・衛生担当



傷病者の手当てや衛生管理に努めます。また、救護場所の設置やトイレの利用と衛生管理を行います。給田小には、校庭の一輪車置き場の前にトイレとして使用する災害用マシホルが10個あります。災害の規模にもよりますが、十分な設備とは言えません。ご家庭でも簡易トイレや使い捨てトイレの用意をおすすめします。

家族と子どもたちを 私たちで守る！

避難所運営・防災訓練

給食・物資担当



避難所の人数と備蓄量、救援物資量を的確に把握管理し、配給が不公平にならないようにします。世田谷区では、概ね2km範囲内に給水所を設けています。給田小学校の近くでは、都立祖師谷公園に応急給水槽(1500L)があります。



上記の4つのグループの他にも、成城消防署山出張所・成城消防団第4分団の皆さんによる救急救命(AED)体験が体育館で、消火器による消火と起震車の体験が校庭で行われました。わくわくフェスティバルなどでもご指導いただいておりますが、繰り返し体験することが大切です。どれも一度体験しておくといざという時に落ち着いて行動ができます。

最後に

給田小の防災倉庫には、さまざまな物資が備蓄されています。水200リットル、ビスケット3000個、アルファ米16000食、その他粉ミルクや生活必需品、資機材などです。大規模災害の場合は、大人1日分の食糧にしかありません。各家庭で家族が少なくとも3日間は過ごせるだけの食糧の備蓄が必要になります。避難所の運営は、誰かがやってくれるわけではありません。避難所に集まった人たち(保護者や地域の皆さん)で運営しなくてはなりません。実際に参加してみると、人ごとではないと実感しました。是非、多くの方に参加していただきたいと思いました。

(学校運営委員 清水啓子)

今月のわんこ 第6号



伊藤 ココちゃん
トイプードル
女の子 4歳8ヶ月

性格.. 明朗で活発。
いたずらっ子ですが、怒られると、自ら反省部屋(トイレ)に入ります。ボール投げと山登りの大好きな元気な女の子です。

あとがき

朝晩、寒さを感じる季節になりました。保護者として子どもが通う学校とどのように関わっていくか。平日は仕事のため学校へ足を運ぶことができないので私は出勤時間が遅い時には、校門前で愛犬を連れて挨拶をしています。今では、子どもたちと学校以外の場所でも会っても挨拶を交わすようになりました。

社会の中で「挨拶をする人」が少なくなった理由として日常の忙しさから心の余裕が失われたこと。コミュニケーションを取ることによるいい思いばかりでなくいやな思いをすることへの警戒心が強くなったことが上げられるそうです。

私は、給田小に関わるようになって心に余裕が持てるようになりました。給田小には人間らしさを取り戻すことができる不思議な力があると思います。これから始まる9年教育の中で給田小が社会を支えて行く子どもたちのパワースポットとして人間らしさを感じさせる学校であり続けるお手伝いができればと思います。

学校運営委員会

委員 土屋 俊幸

